



園だより

令和6年8月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

ある日の給食は、ふりかけを2種類（青のり・かつお節）から選べる献立でした。1歳児クラスでは、2種類のふりかけを混ぜてご飯にかけて提供しました。“選ぶ”ということが状況によっては難しい年齢に配慮してのことです。2歳児クラスでは「どっちがいいですか」という保育士の問いかけに、ふりかけを見比べて「こっち」と指さす子どもたちの姿がありました。“こっちがおいしそう”と目で見て感じた気持ちをそのまま表していますが、ご飯が半分くらいになったところで「くださいな」ともう一方のふりかけをかけてもらい、どちらもしっかり堪能している様子が微笑ましかったです。幼児クラスになると、見た目だけでなく今まで食した経験から味も想像し、ハッキリとした意思を持って選んでいるように見えました。『選べるシリーズ』はふりかけ以外にお肉にかけるソースの日もあり“子どもたちに楽しんでほしい”という栄養士や調理職員の思いが詰まった献立です。

ふりかけを選ぶような小さな事も含めて、人は一日に3万5千回もの選択や決断をしていると言われます。保育園で過ごす時間の中にも子どもたちの選択がたくさんあります。着たい服、やりたい遊び、一緒に遊びたい人、行きたい場所、寝たい、寝たくない・・・一人ひとりに意思があり、その意思が尊重される環境があることで安心して自己発揮し、生き生きと毎日を過ごすことが出来るのだと感じます。大人泣かせな「じぶんで」の時期にも根気よく向き合うことによって“大切にされている自分”を実感できるよう、子どもたちが決めた事や選んだ形を何よりも大切に受け止める保育をしていきます。



心躍る う・ら・じゅ

～3・4・5歳児クラス 民舞の取り組み～



プールじまい
中旬 身体計測 避難訓練

3・4・5歳児クラスでは毎週『民舞の日』を設け、荒馬踊りや阿波踊り、虎舞い、太鼓などに触れて楽しんでいます。お囃子や太鼓の音が聞こえてくると子どもも職員も自然と集まり、体全体で表現することを楽しむ雰囲気が園内に根付き、日常の光景になっています。

職員が子どもたちの前で『うらじゃ』を踊ってみた日のことです。衣装を着て元気よく踊る姿に目は釘付けになり「先生たち カッコよかった～」と心に響いたようでした。職員の踊りを動機付けにして、次は子どもたちが踊る番です。ひまわり組は木製の鳴子を見て歓声を上げる程喜んでいました。鳴子を手に格好よく踊る姿を見て、すみれ組やさくら組も「踊ってみたい」と言っていました。3つのクラスが踊り始めると1・2歳児クラスも保育室から出てきて見よう見真似で踊りだし、ピロティが一気に賑やかになります。

“民舞が楽しい”と感じる気持ちは大人から子どもへ、年齢の大きいクラスから小さいクラスへと広がり、子どもたちの共通の楽しみになっています。気持ちのままに踊る楽しさや嬉しさを感じられる活動として、これからも大切に位置付けていきます。

『心地良さを感じながら』

つぼみ組(0歳児クラス)

水の入った洗面器に保育士が手を入れてみせると“なんだろう”という表情で近付き、同じように手を入れています。「冷たいね」と声をかけると目をぎゅっとつむりながら、しばらく手を浸して気持ち良さを感じているようでした。保育士がピチャピチャと水面を叩いてみせると、水しぶきに驚きながらも自分でも叩いてみて、手に当たる水の感触に笑顔を見せていました。

水の音やしびきなど、水ならではの楽しさや面白さを感じている子どもたちの気持ちに共感し、一緒に楽しんでいきます。氷を使って遊ぶなど、季節を感じられるような感触遊びも取り入れていきます。



『楽しみ方はいろいろ』

ちゅうりっぷ組(1歳児クラス)

ボウルに少しずつ入れた水をひしゃくでゆっくりとかき混ぜている子がいました。その手つきはまるで料理をしているようで「何を作っているの」と尋ねると、微笑みながら保育士を見ています。「お味噌汁かな、シチューかな」と思いつくものを聞いてみるのですが、静かに首を振るだけです。“料理ではなかったのかな”と考えていると、そのうち嬉しそうに大きな声で「カレー」と教えてくれました。

カレー作りのようにイメージを持って遊ぶ子、ダイナミックに水を浴びて遊ぶ子、水の流れを不思議そうに見つめながら色々と試している子など『水遊び』とひと言で言っても子どもたちの姿は様々です。一人ひとりが楽しみ方を見つけ、水遊びを存分に経験出来るようにしていきます。



夏がここにも あそこにも



『ほんとに飛んだね、カブトムシ』

たんぼぼ組(2歳児クラス)

クラスにカブトムシとクワガタムシが仲間入りしました。「どこにいるのかな」「出ておいで、カブトムシ」と言いながら、友達と飼育箱を覗き込みます。カブトムシが“ブーン”と羽音を立てると子どもたちはびっくりして「キャ〜」と押し入れに逃げ込みますが、少し経つとまた見たくなくなって覗きに來ます。カブトムシは再び羽を鳴らし、今にも飛び立ちそうです。保育士が羽を鳴らす様子を真似ると、子どもたちも「ブーン」と言いながら真似っこ遊びを楽しみます。その時、飼育箱の蓋が開いていて実際にカブトムシが飛び立ちました。間一髪保育士が両手でキャッチすると「わぁ〜」「びっくりした」「本当に飛んだね」と歓声が上がりました。絵本で見えて興味を抱いていた生き物ですが、本物を目にして触れることで絵本と結びついたり細かな点に気付いたり、子どもたちにとって生きた学習になっていることを感じます。

生き物への興味、関心が広がり“なんでだろう”と不思議に思うことがワクワクドキドキにつながってほしいと願っています。子どもたちの心が動くような経験を重ね、一緒に楽しめます。

